

トピック — 平成26年の野菜輸入動向について —

平成26年の野菜の類別輸入数量は、生鮮および乾燥野菜が増加したものの、それ以外では減少したことから、全体では前年比1.4%減の267万トンとなり、2年連続の減少となった。

一方、輸入金額は、輸入数量の過半を占める中国の生産・加工コストの上昇や最近の円安による輸入単価の上昇等から、前年比4.4%増の4,695億円となり、過去最高を記録した。

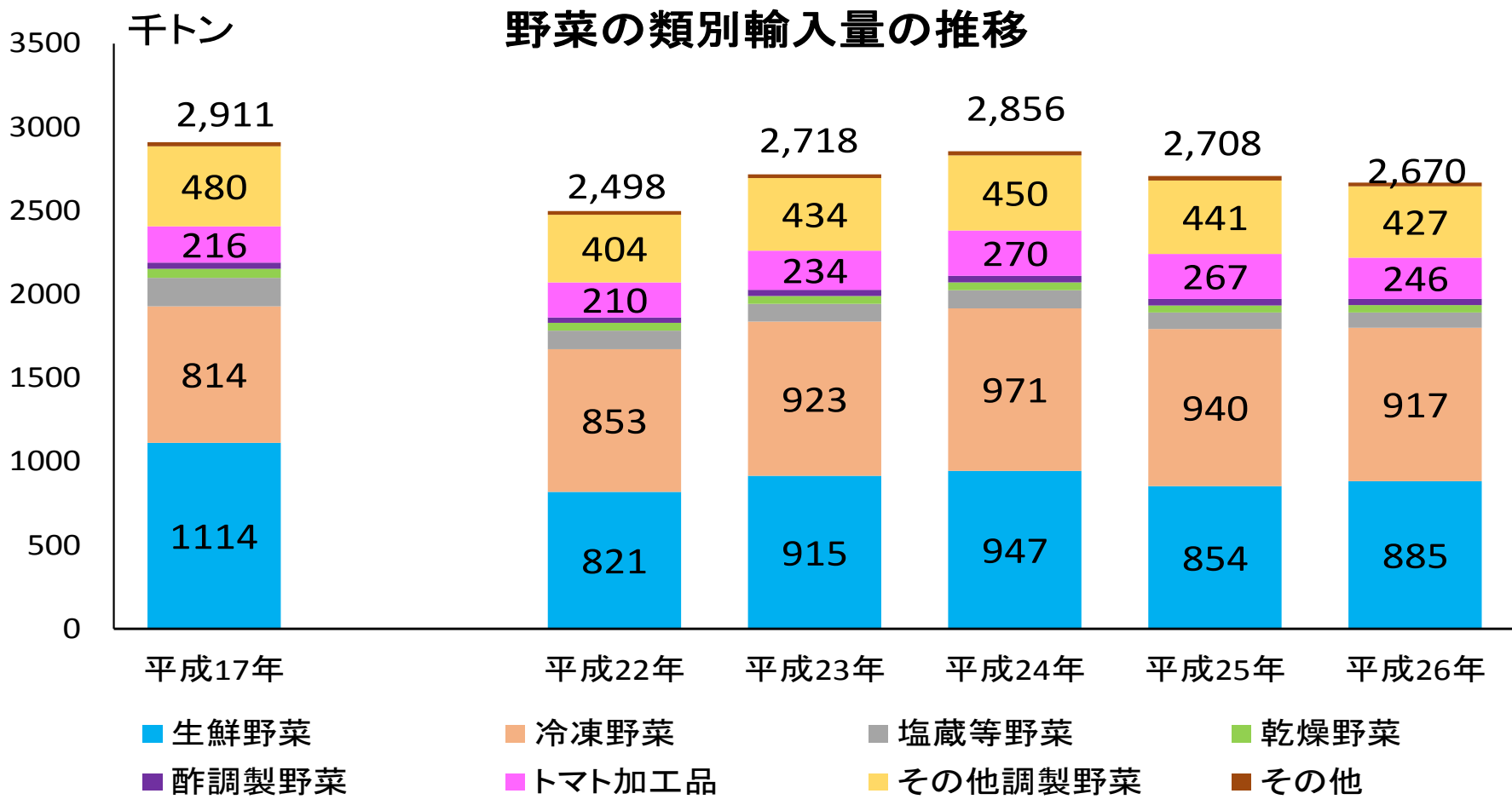
特に、平成25年～27年の為替レート（TTS、円/ドル）は、80.8円から106.8円へと32%の大幅な円安となり、輸入単価（円/kg）も同期間に136円から176円へと33%の大幅な上昇となった。

平成26年の輸入数量を、過去最高であった平成17年と比較すると、全体では8.3%減、生鮮野菜は21%減となった一方、加工度が高い冷凍野菜、トマト加工品は各々13%増、14%増となった。輸入額は、輸入単価の上昇も相まって26%の大幅な増加となり、特に冷凍野菜、トマト加工品が各々55%、59%増加した。このように最近の輸入動向は、単価や加工度がより高い冷凍・加工品や調製品の金額ウエートが高まる傾向がみられる。

また、昨年の後半以降の米国西海岸の港湾ストの影響から、輸入ウエートは小さいものの、フライドポテト仕向けが多い冷凍ばれいしょの輸入が滞り、昨年8月～12月の輸入量は23%減少した。このため、米国からの航空貨物による輸入量が、一部の外食企業の代替輸送もあって急増した。（参考：航空貨物便の運賃は船便の約4倍強）

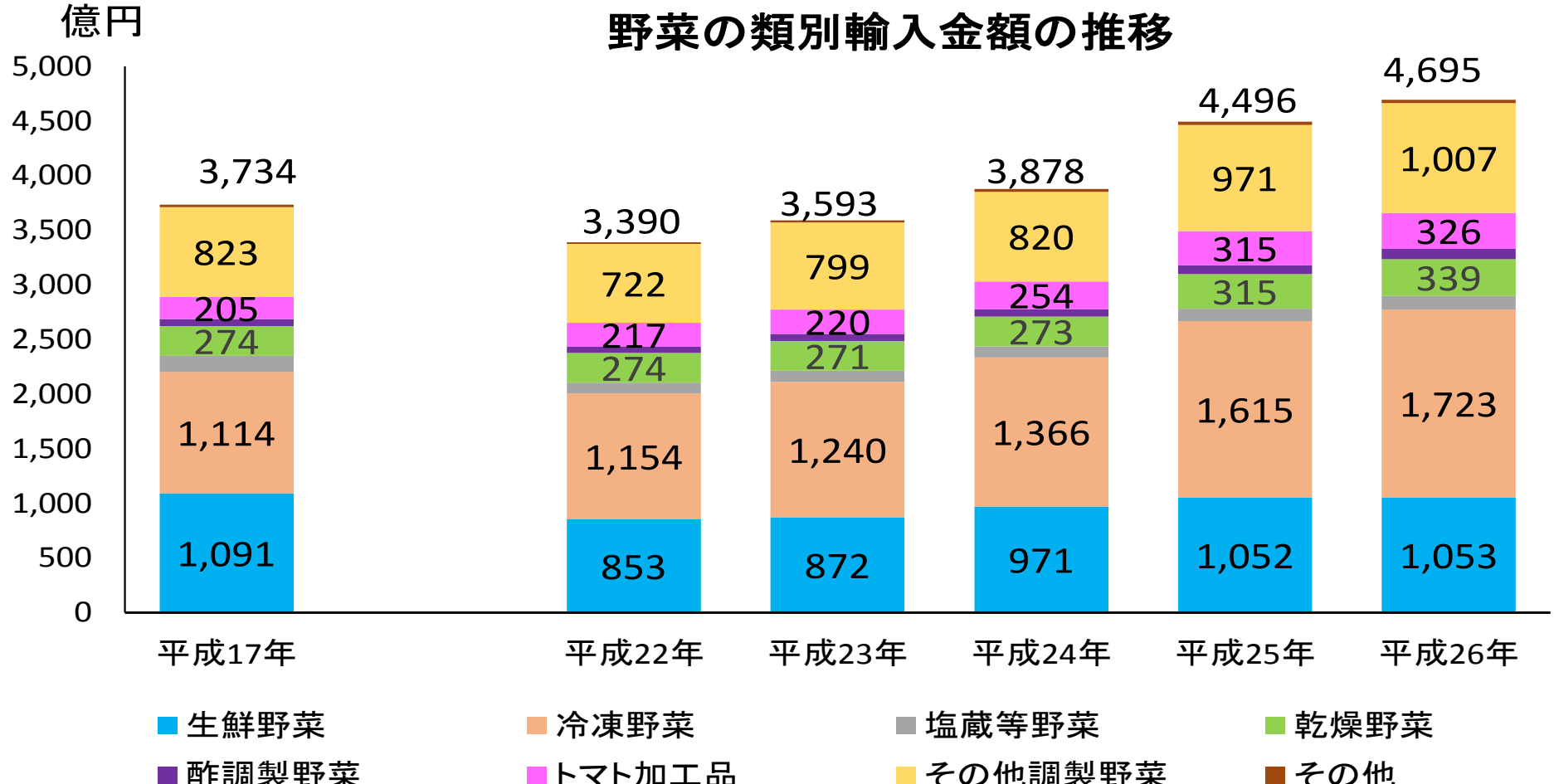
平成26年の野菜輸入量は、国内産や海外産地の作柄、市況変動と円安の影響を受ける中で、年の前半は増加傾向、後半には減少傾向となり、さらに米国の港湾ストの影響も一部でみられた。

最近では、輸入構造の変化もみられており、国産野菜も単価や加工度がより高い製品の競争力を強化していくことが重要となっている。



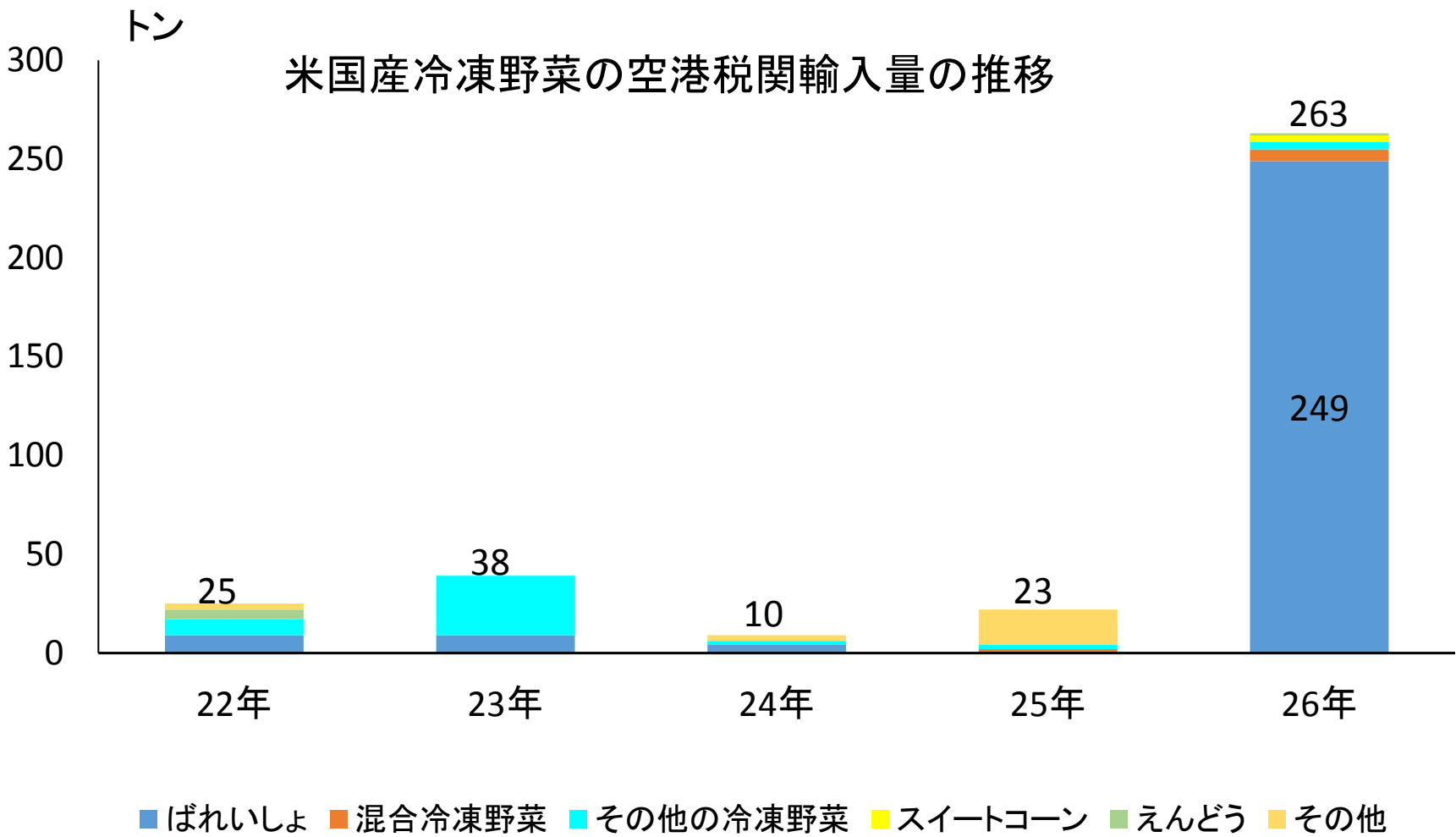
平成26年野菜輸入数量の平成17年との対比(増減率)

（％）								
合計	その他	その他調製野菜	トマト加工品	酢調製野菜	乾燥野菜	塩蔵等野菜	冷凍野菜	生鮮野菜
△8.3	△12.7	△10.9	13.7	5.8	△21.5	△46.1	12.6	△20.6



平成26年野菜輸入金額の平成17年との対比(増減率)

（％）								
合計	その他	その他調製野菜	トマト加工品	酢調製野菜	乾燥野菜	塩蔵等野菜	冷凍野菜	生鮮野菜
25.8	53.0	22.3	59.3	52.5	23.7	△15.5	54.6	△3.5



資料：財務省「貿易統計」

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 前川、河原、斎藤、海老沼 TEL03-3583-9483、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。

◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方はペジ探のトップ画面、メルマガ配信登録・解除ボタンから登録してください。

★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.html に掲載しています。